

令和8年度（2026年度）箕面市議会行政視察報告書

1 日程

令和8年（2026年）5月21日（木）～ 5月22日（金）

2 視察先

（1）岡山県津山市

視察項目	地球温暖化対策、カーボンオフセット事業について（森林系クレジットも含む）
視察目的	地球温暖化が進んでいる現状で、それに対する施策が必要である。具体的にカーボンオフセットやクレジットなどの事業を行っている津山市の現状を学び、箕面市での施策にどのようにしたら取り入れられるかを学ぶ。

（2）岡山県真庭市

視察項目	真庭バイオマスツアー・くらしの循環センター視察 生ごみ等の資源化の取組みについて、バイオ液肥の濃縮について
視察目的	今回の視察の目的は両市とも、温暖化対策として、市民とともに事業に取り組んでいる点や真庭市の森林材の活用、生ごみ、し尿などを活用し、循環型社会を目指すとともに温暖化対策を進めている点について学ぶ。

3 参加者

議員	市民クラブ：増田京子議員（幹事長）、浦川倫子議員、牧 馨議員、 中西智子議員 日本共産党：村川真実議員（幹事長）、金森いずみ議員
----	--

岡山県 津山市

地球温暖化対策 カーボンオフセット事業について（森林系クレジットも含む）

項目	内容	備考
津山市について	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：92,848 人（令和 8 年 3 月末時点） 世帯数：45,377 世帯 面積：506.33 km² ・岡山県の北部に位置、市域の約 7 割が森林。 ・1 市 3 町 1 村の合併で現在に至る。 	説明 津山市議会事務局・津山市環境福祉部脱炭素社会推進室
津山市ステンレス・メタルクラスターについて	高い技術力と開発力を誇る岡山県北部の金属加工企業の集合体である。多種多様な技術の 4 5 社の企業連携により、ニーズや課題に合わせたステンレス加工を中心とした産学官ネットワークを形成し、2015 年に発足した。	説明 津山市環境福祉部脱炭素社会推進室
津山市カーボンオフセット事業（家庭向け太陽光発電）について	2010 年から一般住宅向けの太陽光電気設備補助事業を開始し、補助金利用の要件に J-クレジット創出事業への協力を設定し、約 460 世帯の津山環境倶楽部を設立、市がクレジットの創出を行い、NPO 法人にクレジット管理をパートナー協定で依頼し、売上は寄付という形でゼロカーボン施策に還元という形をとっていた。	同上
オフセット商品について	1 枚につき CO2 1 キロ相当のクレジットを付加した「環境価値付加認証シール」を 1 枚 5 円で販売。ロールケーキやお米、野菜、日本酒に貼付し、消費者が貢献できる仕組みだったが、物価高騰で価格転用が難しいため昨年度末に終了した。	同上
新規創出プロジェクト・岡山連携中核都市圏について	令和 7 年度に市有施設に整備した太陽光発電設備と照明 LED 化による J-クレジット創出プロジェクトと一般家庭の太陽光発電は岡山連携中核都市圏で開始し、8 年間はクレジット創出を継続する。	同上
市民参加や合意形成の仕組みについて	市の区域計画編策定時には、市民参加の方法として、津山市地球温暖化対策協議会、出前授業、市民アンケート、パブリックコメントも実施した。また親子エコフェスタや保育園・学童・事業所などでのグリーンカーテン作品展を通して、環境や食育、気候変動につ	同上

いて学んでいる。



所感

上記内容以外にも、小水力発電を行っており、あば村では過疎地域のガソリンスタンドの維持のために売電を行い、小田中の配水池では発電を行うことで送水電力を自家消費し、コストを削減している。その他、啓発では環境絵馬事業や美作大学のミマデザインの協力で親子エコフェスタなどターゲット層への情報伝達を行っていた。これらは大いに学ぶところがあり、本市の再エネ事業にも活用したい内容である。また、職員が「自治体がリーダーシップを発揮し、市民から意見を引き出す姿勢が必要」という意気込みのある発言があったのが印象的であった。

視察先 真庭市

くらしの循環センター視察(生ごみ等の資源化の取組みについて、バイオ液肥の濃縮について)

項目	内容	備考
真庭市について	<ul style="list-style-type: none"> ・人口：39,480人（2026年3月末時点） 世帯数：17,217世帯 面積：828.53 km² ・岡山県の北部、中国山地のほぼ中央に位置し、北は鳥取県に接する。森林率約79%。 ・9町村で合併し、現在に至る。 	
真庭市くらしの循環センター視察	<ul style="list-style-type: none"> ・真庭市は、人口減の中、ごみ処理施設3カ所の老朽化、ごみ最終処分場が満杯になることなどを受け、ごみ処理のあり方を検討。 ・紙、生ごみ、プラスチックごみは再生可能資源として分別収集。特に生ごみがごみ収集の約40%~50%を占めるため、燃えるごみを減らす取組みとして生ごみ回収、資源化を進める。分別収集は21種類。生ごみ回収収集は無料。その他燃えるごみは有料（66円/大1枚） ・し尿や浄化槽汚泥はメタン発酵をし、バイオガス発電をし、電気と温水として利用。 ・センターは市内の衛生許可業者で構成した事業者が指定管理者となっている。 	説明：真庭市くらしの循環センター「まにくるーん」施設長
施設見学	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみは回収場所は約1500カ所設置。回収箱が置けないところは貸出制度もあり、循環センターに持ちこんでもらう。金属などが入っていないか、作業員が手選別と金属探知機で選別。濃縮液肥は独自技術。その機械は特許をとっている。普通の液肥はセンターで無料で入れものに入れて自由に持ち帰れる。 ・2025年度のバイオマス液肥普通のが60トン、濃縮液肥112トン。濃縮バイオ液肥は10a2,000円（農地へ運搬し散布混み代金）。濃縮バイオ液肥は水稻に多く使用。 ・生ごみ回収などの循環事業をすることで、可燃ごみ自体も（生ごみ以外に）2割ほど減量となった。 	同上

里山資本主義について（森林活用事業）

- 2005年頃からバイオマス産業都市構想を策定。合併後市民会議と議論をしながら実施。
- 林業の従事者240人、平均年齢40歳。
- 木質バイオマス発電はこれまで廃棄していた林地残材、製材端材、樹皮等を資源として活用できる体制を構築。森林整備促進、木材産業の振興に一定の効果を出している。
- 課題としては高齢化、人口減少による担い手不足。再生林を含めた持続的な森林資源循環の維持などがある。

説明：産業観光部
農業振興課農政企画係
林業/バイオマス産業課
生活環境部 環境課



バイオ資源受入装置（異物処理、容器洗浄等）



市配付の水切りバケツ（網目の内かご付）





所感：

温暖化が進む中、いち早く森林や生ごみの循環を進める取り組みを実施し、一度は視察を試みたいと思っていた真庭市にやっここれた、という感じでした。

森林率 79%という自治体ですが、それを活かそうという取り組みこそがこれからの自治体には不可欠でしょう。箕面市も森林率、下がっては来ましたが 50%です。里山は使わないと荒廃していきます。真庭市は、バイオマス発電や温泉などの宿泊施設では燃料を灯油から薪に転換することで、地域内の循環が進み、また今の世界情勢で、石油が高騰するなか、経費の削減にもつながるでしょう。

生ごみのバイオ液肥の濃縮工場は 3 つの企業のそれぞれの機能をいかし、それを一つの作業循環に組み込んだ機械としているとのこと。企業と市が意見交換をしながら新たな機械を創出。東大阪の町工場がその連結部分などを担った、とのこと。技術力によって他に例のない濃縮液肥工場が作られています。これが特許をとっている機械（工場）ですが、ここまでするには自治体としても余程、力をいれないとできないことだったと推測できます。そこまでごみ減量資源化に力を入れる姿勢は学ぶところが多くありました。

また、生ごみの収集も実際の収集場所を見ましたが、週 2 回の収集ですがとてもきれいです。24 時間いつでも回収箱に入れて良いとのこと、市民も使いやすいものになっています。箕面市もコンポストパーク計画がありながら、その第一弾であった、学校の給食残渣と剪定枝などをチップにしたものから作っていた生ごみ堆肥を止めてしまいました。捨てればごみ、活かせば資源。これを実践している真庭市には多に学ぶところがあることを実感した視察でした。

今後の地球温暖化対策含め、箕面市の森林、生ごみ、などを活かした施策に活かしていきます。